

# 経済・金融 フラッシュ

## 中国経済：来週の注目ポイント

～来週 10 日発表の輸出、“水増し”疑惑で不透明だが、香港除きや日米欧など相手先別の動きに注目

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

- 中国では来週 9 日に消費者物価、10 日に貿易統計が発表される予定である。
- 6 月の消費者物価は、食品価格が上昇しており、賃金上昇を背景としたサービス価格の上昇も続いたと見られることから、5 月より上昇率が高まり前年同月比 2.3% 上昇と予想している。
- 6 月の輸出は、新規輸出受注の低迷や“水増し”の反動減で、前年同月比 0.5% 増と予想している。また、“水増し”の影響が少ない香港除きや日米欧など相手先別の動きにも注目したい。

発表 予定日	経済指標	当研究所の予測値		前回	
			対象期		対象期
7月9日	消費者物価指数 (前年同月比)	2.3%	2013年6月	2.1%	2013年5月
7月10日	貿易収支 (百万ドル)	31,105	2013年6月	20,425	2013年5月
	輸出総額 (前年同月比)	0.5%	2013年6月	1.0%	2013年5月
	輸入総額 (前年同月比)	1.0%	2013年6月	-0.3%	2013年5月

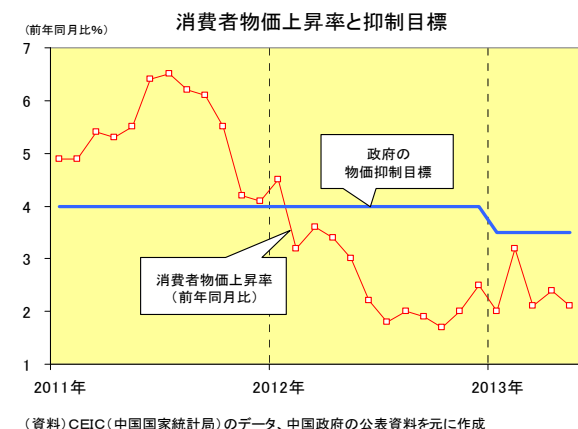
### ①消費者物価〔発表予定日：7月9日(火) 午前9:30(現地時間)〕

9日(火)には、中国国家统计局が6月の消費者物価を発表する予定である。5月の消費者物価は前年同月比 2.1% 上昇と前月の同 2.4% 上昇を (図表-1)

0.3 ポイント下回った (図表-1)。5 月に上昇率が鈍化したのは、4 月には前年同月比 5.9% の上昇となった生鮮野菜が、5 月には同 1.9% の下落に転じたことが主因となった (図表-2)。

今回発表の6月は、中国の食卓には欠かせない豚肉が前月末比でやや上昇、アブラナも同 1 割程度上昇しているが、その他の穀類・肉類・生鮮野菜には目立って上昇したのが見られないことから (20 日時点)、食品価格は小幅上昇に留まりそうである。但し、サービス価格は賃金上昇を背景にじわじわと上昇を続けていることから (図表-2、

3)、6 月の消費者物価は 5 月よりも 0.2 ポイント上昇して前年同月比 2.3% 上昇と予想している。



(図表-2)

	消費者物価						消費品(モノ)		サービス
	消費	品目別					消費	サービス	
		食品	うち生鮮野菜	衣類	交通通信	居住			
2012年1月	4.5	10.5	23.0	3.3	0.2	1.9	5.5	2.2	
2012年2月	3.2	6.2	6.5	3.8	0.1	2.1	3.9	1.5	
2012年3月	3.6	7.5	20.5	3.8	0.3	2.0	4.4	1.5	
2012年4月	3.4	7.0	27.8	3.6	0.3	1.8	4.1	1.7	
2012年5月	3.0	6.4	31.2	3.1	▲0.1	1.6	3.6	1.7	
2012年6月	2.2	3.8	12.1	3.3	▲0.4	1.6	2.3	1.9	
2012年7月	1.8	2.4	8.0	3.3	▲0.9	2.1	1.7	2.0	
2012年8月	2.0	3.4	23.8	3.1	▲0.8	2.2	2.1	2.0	
2012年9月	1.9	2.5	11.1	3.4	▲0.2	2.3	1.8	2.3	
2012年10月	1.7	1.8	1.1	2.7	0.1	2.5	1.5	2.3	
2012年11月	2.0	3.0	11.3	2.3	0.0	2.6	1.9	2.3	
2012年12月	2.5	4.2	14.8	1.9	0.0	3.0	2.5	2.5	
2013年1月	2.0	2.9	2.6	2.5	▲0.3	2.9	2.0	2.2	
2013年2月	3.2	6.0	10.0	2.1	0.2	2.8	3.3	3.1	
2013年3月	2.1	2.7	▲10.3	2.3	▲0.3	2.9	1.7	3.1	
2013年4月	2.4	4.0	5.9	2.5	▲1.1	2.9	2.2	2.9	
2013年5月	2.1	3.2	▲1.9	2.5	▲1.2	3.0	1.8	2.8	

(資料) CEIC

(図表-3)

	消費者物価						消費品(モノ)		サービス
	消費	品目別					消費	サービス	
		食品	うち生鮮野菜	衣類	交通通信	居住			
2012年1月	1.5	4.2	26.1	▲1.0	0.4	0.2	1.8	0.8	
2012年2月	▲0.1	▲0.3	▲0.3	▲0.3	0.1	0.4	▲0.1	▲0.2	
2012年3月	0.2	0.2	6.1	0.4	0.2	0.4	0.3	0.0	
2012年4月	▲0.1	▲0.9	▲5.8	0.5	0.4	0.2	▲0.3	0.5	
2012年5月	▲0.3	▲0.8	▲6.9	0.1	▲0.3	0.0	▲0.4	0.1	
2012年6月	▲0.6	▲1.6	▲15.2	0.0	▲0.5	0.0	▲0.9	0.3	
2012年7月	0.1	▲0.1	0.2	▲0.5	▲0.4	0.5	▲0.1	0.6	
2012年8月	0.6	1.5	14.3	▲0.2	0.1	0.4	0.7	0.2	
2012年9月	0.3	0.2	▲5.6	1.1	0.4	0.3	0.4	0.3	
2012年10月	▲0.1	▲0.8	▲12.1	0.9	0.1	0.2	▲0.2	0.2	
2012年11月	0.1	0.4	3.5	1.0	▲0.3	0.2	0.3	▲0.3	
2012年12月	0.8	2.4	17.5	0.0	▲0.2	0.1	1.1	0.0	
2013年1月	1.0	2.8	12.7	▲0.4	0.1	0.2	1.2	0.4	
2013年2月	1.1	2.7	6.9	▲0.7	0.5	0.3	1.2	0.8	
2013年3月	▲0.9	▲2.9	▲13.4	0.6	▲0.3	0.5	▲1.3	0.0	
2013年4月	0.2	0.4	11.2	0.7	▲0.4	0.2	0.2	0.3	
2013年5月	▲0.6	▲1.6	▲13.8	0.1	▲0.4	0.1	▲0.8	0.0	

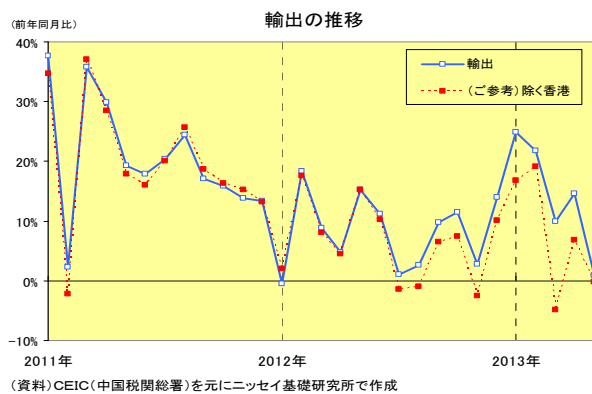
(資料) CEIC

## ②貿易統計〔発表予定日:7月10日(水)〕

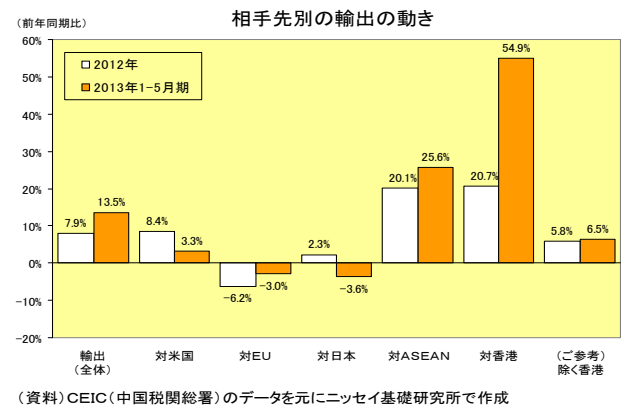
10日(水)には、中国税関総署が6月の貿易統計を発表する予定である。前回発表された5月の輸出総額は前年同月比1.0%増と4月の同14.7%増を大きく下回った。5月に輸出が落ち込んだのは、中国国家外貨管理局が輸出の“水増し”を厳しく取り締まったことが影響したといわれており、実態の動きが把握しづらくなっている。輸出に“水増し”が発生したのは、中国本土に投機的マネーを持ち込むために輸出を装った貿易取引が紛れ込んだためであり、主要ルートは香港経由とされている。そこで、香港向けを除いた輸出の動きを見ると(図表-4)、今年3月には既に前年割れとなりその後も一進一退の動きが続いている(両者の乖離は昨年5月までは殆ど無かったが6月以降に生じ始め今年5月にはほぼ収束した)。また、図表-5に示した今年1-5月期累計を見ると、香港向け輸出は前年同期比54.9%増と異常に高い伸びを示す一方、香港向けを除いた輸出は前年同期比6.5%増と低い伸びに留まっており、日米欧向けも冴えない伸びが続いている。

さて、今回発表の6月の輸出だが、先行指標となる製造業PMI(新規輸出受注)は6月も拡張・収縮の分岐点となる50を下回っており、前年同月の昨年6月には香港除きとの乖離が既に生じ始めていたことから“水増し”の反動減も加わり、前年同月比0.5%増と低い伸びを予想している。また、今回は“水増し”の影響が少ない香港除きや日米欧など相手先別の動きにも注目したい。

(図表-4)



(図表-5)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。